産婦人科　研修プログラム

１ 研修先

産婦人科

２ 指導体制

各科・診療部門における指導体制は、別表「指導医及び指導者一覧」を参照

３ 診療科基本スケジュール

（１） **研修期間**　必修研修　４週間

自由選択研修　４週間　**※自由選択が１回目の研修は当該期間を短縮することはできない（延長は可）が、２回目以降の研修は短縮することができる。**

（２）配置予定

	必修研修	自由選択研修
病棟	指導医の下で受持医	・指導医の下で受持医 ・１年次のサポート
外来	指導医の下で、外来患者を適宜診察	指導医の下で、外来患者を適宜診察
手術	担当する予定手術症例には手洗いを行って参加し、指導医の下で創部縫合などの手技を経験する。	担当する予定手術症例には手洗いを行って参加し、指導医の下で創部縫合、開腹、閉腹などの基本操作を経験する。
救急	時間内救急車対応 分娩・緊急手術や母体搬送などの急患に対応し、指導医とともに検査・治療などを施行する。	時間内救急車対応 分娩・緊急手術や母体搬送などの急患に対応し、指導医とともに検査・治療などを施行する。

（３） 週間予定表

	午前	午後
月	病棟回診、手術	病棟業務、手術
火	病棟カンファレンス、病棟回診、手術	病棟業務
水	病棟回診、手術	病棟業務、手術
木	病棟回診、外来業務	病棟業務、症例検討会、母親学級（月１回）
金	産婦人科・新生児科合同カンファレンス、 病棟回診、外来業務	病棟業務

４ 研修目標

産婦人科は女性を生涯にわたってサポートする診療科であり、女性の心身と共に社会的背景も理解しながら診療にあたる態度を身に付ける。産婦人科特有の診断・治療法の特殊性を理解し、基本的な診察法、臨床検査、治療法、加えて医学的倫理を身に付ける。

（１）基本的産婦人科診察

・視診、触診（外診、双合診）、直腸診、新生児診察に必要な基本的技能を身に付ける。

・産婦人科診療に必要な内分泌検査、妊娠の診断、感染症検査、細胞診・病理組織検査、内視鏡検査、超音波検査、放射線学的検査を実施あるいは依頼し、その結果を指導医と共に評価して患者・家族にわかりやすく説明できる。

・産婦人科に必要な正確な病歴、理学的所見、症状、経過、検査結果が診療録に記載でき、指導医に的確に症例報告ができる。

・薬物の作用、副作用、相互作用、特に妊産婦ならびに新生児に対する投薬の注意点や特殊性が理解できる。

（2）産科医療

・正常妊娠、分娩、産褥ならびに新生児の生理が理解できる。

・正常頭位分娩における母体と児の娩出前後の管理を経験できる。

・ハイリスク妊娠・分娩、ハイリスク胎児の病態を理解できる。

・産科救急疾患の診断とプライマリケアを理解し、経験できる。

・周産期センターの活動、役割が理解できる。

（3）婦人科医療

・婦人の解剖と生理学、婦人科検査の意義と適応を理解できる。

・婦人科良性腫瘍の診断ならびに治療計画が立案できる。

・婦人科悪性腫瘍の早期診断法を理解し、集学的治療が理解できる。

・内分泌疾患・不妊症・思春期、更年期患者の検査と治療計画が理解できる。

#	代表的行動	知 識	態 度	技 能
①-1	正常分娩を経験し、症例要約で考察を書く。	●	●	
①-2	異常分娩を経験し、その分娩経過について説明する。	●	●	
①-3	産婦人科の救急疾患を経験し、鑑別疾患をあげ、診断のための検査を提案する。	●		
①-4	産婦人科の救急疾患の初期対応、治療について説明する。			
②-1	代表的な婦人科腫瘍の治療について説明する。	●		●
②-2	妊婦への画像検査、薬物投与について説明する。	●		●
②-3	STDの症状、診断、治療、胎内感染の問題について理解する。	●		
③-1	入院中の妊婦の背景を理解し、周産期カンファレンスでプレゼンする。	●	●	●

#	代表的行動	知 識	態 度	技 能
①-1	患者の現病歴、既往歴、家族歴等一般的な問診内容に加えて、月経・妊娠歴を詳細に収集する。	●	●	
	患者の家族背景についての情報を収集する。	●	●	
	分娩立ち会いの際、患者の情報収集を行い、リスクを挙げる。	●		
②-1	経腟超音波を使用して診察する。			●
②-2	妊婦の経腹超音波検査を経験する。	●		●
②-3	患者背景（ハイリスク妊娠や悪性腫瘍など）に合わせた対応をする。		●	●
③-1	SOAPに沿ってカルテ記載をする。	●		●
	担当妊婦のCTG所見を毎日記載する。	●		●
③-2	研修終了までに中間病歴要約を作成し、指導医のチェックを受ける。	●		●
	担当患者の退院サマリーを作成する。		●	

5　経験すべき症候、疾病、病態（赤文字下線付きは必須項目）

経験すべき症候（※1）	便通異常（下痢・便秘）、妊娠・出産、終末期の症候
経験すべき疾病・病態（※2）	特定のもの:なし

※1　外来又は病棟において、上記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。
※2　外来又は病棟において、上記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

6　経験すべき手技

圧迫止血、採血法（静脈血）、注射法（皮内・皮下・筋肉・点滴・静脈確保）、穿刺法（腹腔）、導尿法、ドレーン・チューブ類の管理、胃管の挿入と管理、局所麻酔法、創部消毒とガーゼ交換、簡単な切開・排膿、皮膚縫合、超音波検査（腹部）

7　実際の業務

・病棟医としてその日の病棟担当指導医と共に毎日の回診、診察、処置を行い、母体搬送、分娩、緊急手術等の急患についても適宜診療に携わる。
・分娩については、分娩経過の観察・管理に継続的に参加する。夜間業務については積極的に参加することを推奨するが、義務ではない。
・予定手術症例について指導医と共に担当患者を受け持ち、検査、処置、治療、病状説明や心理社会的側面への配慮についても学ぶ。
・受け持ち患者の手術には、全例手洗いを行って手術に参加し、第２助手としての役割を経験する。糸切りや糸結びなどの操作を習得し、自由選択研修では習得状況により、指導医のもと一部執刀も経験する。

・外来研修では、指導医のもと問診、診察、超音波検査等の業務に参加する。主に妊婦健診、月経関連疾患、感染性疾患、更年期障害など入院にならないような疾患について、診察法、治療法などを学ぶ。
・経験すべき症例や手技・処置をできる限り網羅できるよう当科で作成したチェックリストを活用し、指導医と適宜確認する。
・検討会、カンファレンスには必ず出席し、受け持ち患者の病態についてプレゼンテーション、ディスカッションを行う。

８ 指導内容

・ベッドサイドでのリアルタイムの指導・フィードバック
・症例プレゼンテーション、診療録に関するフィードバック
・個々の症例に対するマネジメントの相談、フィードバック

９ 方略･評価

・診療科基本スケジュールとチェックリストに沿って研修を行うほか、オリエンテーション（業務内容や周産期患者、術後患者のマネジメントの要点説明等）や病棟回診、患者・家族説明への同席、カンファレンスを実施する。
・基本的には、特定の指導医をつけずに上級医全員が指導を行い、症例や手技に偏りが生じないようにする。
・EPOC２を用いて研修医による自己評価、指導医による評価を行う。
・研修終了時、指導医、メディカルスタッフから評価・フィードバックを受ける。